



目 次	
●副会長あいさつ	1
●県教頭会ブロック大会の報告	2～3
●専門部活動報告	4
●関ブロ茨城大会報告	5
●郡市教頭会ネットワーク	6～7
●特集	8
●随想	9
●教育懇談会報告	10



実践成果を踏まえ、新たなステージへ始動

新潟県小中学校教頭会

副会長 **西 條 敏 一**

(上越市立稲田小学校)

年度当初、田中県教頭会長は、「教頭は、学校課題を的確に把握し、『次世代の学校』『地域創生』の先頭に立たなければならない。常に職員の一步前に立ち、リードしていかなければならない。」と述べております。各校において、会員の皆様には、各学校の中心となり、校長を助けながら機能的な学校組織体制と地域連携を進めていただいていることと拝察いたします。

第52回新潟県小中学校教頭会研究大会・第10回ブロック別研究大会を昨年10月28日に無事終了することができました。これもひとえに各教頭会会員の皆様の日々の実践と学校運営に誠心誠意ご尽力いただいているからと感謝申し上げます。

本会報では、「ブロック別研究大会の報告」が掲載され、研究部からは後日「成果と課題」がまとめられます。教頭会HPでも広く広報していきますのでご覧いただきたいと思ひます。

研究主題「豊かな人間性と創造性を育む学校教育」、サブテーマ「生涯にわたって能動的に学び続ける子どもを育む学校づくり」(～3年次研究～)の区切りの年でありました。各ブロックでは、貴重な実践と同じ教頭という立場に立った建設的な意見交換がなされ、大変有意義な場であったと聞いております。その中において、共通して下記の内容がグループ協議で活発に話し合われました。

○キーワードは「連携」。保小中の連携、保護者との連携、地域との連携、関係機関との連携があり、その中心に教頭が存在する。

○既存の組織や地域システムの活用が成功の鍵。

○教頭の職務は所属職員との連携なしには成り立たない。そのためには職員からの信頼が不可欠。

改めて教頭職の重要性を認識し、学校運営のなめめとして精進していかなければならないと感じました。

さて、いよいよ来年は、第53回新潟県小中学校教頭会全県大会(上越・妙高大会)が開催されます。これまでの各ブロック研究大会での実績を踏まえ、全県の教頭が一堂に会して協議することになります。そこでは、第11期全国統一主題「豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育」を受け、サブテーマを「主体的に学び、たくましく生き抜く子どもを育む学校づくり(仮)」と設定します。子どもたちは、先行き不透明で変化の激しいこれからの社会を生きていかなければなりません。私たちは、そうした厳しい時代を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲をもつ自立した人間として未来を切り拓いていく力を子どもたちに育んでいかなければならないと考えています。

このような情勢の中、上越・妙高の地で行う研究大会は、地域に備わる歴史や文化、豊かな自然環境などを生かすとともに、コミュニティスクール制度を取り入れながら、自分の地域に愛着や誇りをもてる子どもの育成を語り合うよい機会となります。新しい学習指導要領実施に際し、無理のない、スムーズな教育課程編成に向けて集い、学んでいきましょう。

県教頭会ブロック大会の報告



上越地区ブロック別 研究大会の成果と課題

上越地区ブロック別研究大会研究部長

小林 辰 男

(柏崎市立第二中学校)

上越地区ブロック別研究大会は、柏崎市市民プラザを会場に、開催されました。当日は、第1分科会「教育課程に関する課題：園・小・中連携を推進するための教頭の役割について～妙高高原中学校区園・小中学校連絡協議会の取組を通して～」、第2分科会「教育環境整備に関する課題：キャリア教育を中核とした未来を切り拓く力の育成～中学校区小・中学校9年間のつながりを意識した教育の推進～」、第3分科会「教職員の専門性に関する課題：中学校区連携による「つなぐ」「高める」取組～教職員の資質・能力や専門性の向上を図る教頭会の関与性～」の3つの部会で、提言と協議が行われました。本研究大会を通じて見えた成果と課題を、以下に報告いたします。

[成果1] 幼保・小・中連携を推進するための教頭の役割について、提言者の取組をもとに、校種や学校規模、地域性等の自校の実態を踏まえ、今後の連携の視点について活発な協議ができた。

[成果2] 中学校区における各校の取組の連携では、既存の組織や地域システムの活用及び教頭会の果たす役割を明確にした具体的な関与の仕方が成功の鍵となることを認識できた。

[課題1] 小学校間の横の連携、幼保・小・中の縦の連携の他に、保護者・地域住民との斜めの連携をどのように構築し、教頭としての関与性を高めていくかが課題である。新任教頭が多いところでは、サポートシステムづくりが必要である。

[課題2] アンケートでは、10%の会員が大会期日について改善を要すると評価した。実施期日を、全会員に早めに確実に周知してきたが、昨年度より改善を要する割合が増加した。

どの分科会も、自校の現状をもとに積極的に意見を交わし、教育活動の中核となる教頭の在り方を追究し、資質を高め合うことができました。最後に、御後援、御指導をいただきました関係諸機関及び指導者の皆様、上越地区ブロック教頭会の皆様に感謝申し上げます。



事前の運営上の問題点と 事後に感じたよかった点

中越ブロック研究大会実行委員長

五十嵐 哲 也

(南魚沼市立六日町小学校)

平成27年3月末、前任教頭との引継でブロック大会が南魚沼で開催されることを聞き、その際、いくつかの問題があることに愕然としました。

最大の問題が、会場をどこにするかでした。270名の全体会と5つの分科会を開催できる公共施設が南魚沼地区にはありませんでした。また、200台以上の駐車場の確保も難しかったです。これらの問題をクリアできる会場は一つしかないということで、NASPAニューオータニで開催することとしました。

次の問題が、会場費でした。前年の燕市吉田産業会館から、NASPAへの変更による参加費の増額という会員への負担増は苦渋の決断でした。

新たな問題は、会場との連絡調整でした。施設部員が、何度も電話でやりとりしたり、会場に出向いたり忙しい思いをしていただくこととなりました。

しかし、終わってみると、NASPAニューオータニでよかったと思われることがいくつもありました。

一つ目は、大会役員が会場準備をしなくてよかったことです。各会場の机や椅子の設営、案内表示の設置などは、全てホテル側が行ってくれました。

二つ目は、駐車場係員が少人数で済んだことです。入口に誘導の係員さえいればよかったというほど、ゆとりある駐車場でした。

三つ目は、会場の立地場所がよかったことです。高速道路のインターチェンジ、新幹線の駅からそれほど離れておらず、迷うことなく到着できた会員も多いようでした。なかには、会場に宿泊して懇親会を実施した教頭会もあったほどでした。

最後に、御後援、御指導いただきました関係諸機関及び指導者の皆様、中越地区ブロック教頭会の皆様に感謝申し上げます、報告とさせていただきます。

県教頭会ブロック大会の報告



下越Aブロック 研究大会の報告

下越Aブロック研究大会副実行委員長

阿部 豊
(新潟市立大形小学校)

平成28年10月28日、第10回下越Aブロック研究大会(新潟大会)を、新潟ユニゾンプラザを会場に開催しました。会員197名が集い、3分科会30グループによる協議を行い、各指導者より各論点を総括してご指導いただきました。

第1分科会(12グループ)

「地域特性に応じた防災体制の構築」(指導者 新潟市教育委員会学校支援課指導主事 川合千尋様、提案者 新潟市立牡丹山小学校 齋藤 暢)

○ 防災体制構築には市区役所等の行政機関との密な連携が不可欠である。教頭が要となり、地域とのネットワークづくりのため、より多くの人や世代とつながり地域をよく知る努力を続けていく。

第2分科会(10グループ)

「地域とつながり元気付ける教育活動の推進」(指導者 下越教育事務所学校支援第2課指導主事 森和人様、提案者 佐渡市立前浜小学校 松本えりか)

○ 学校と地域が子どもの実態や教育環境を話し合っ
てこそ、課題解決に向けて協働していく動きができる。教頭が連携の核となり、地域の諸団体・関係諸機関及び学校間の連携・協働を図っていく。

第3分科会(8グループ)

「インクルーシブ教育システムの構築」(指導者 新潟市教育委員会学校支援課 総括指導主事 齋藤いずみ様、提案者 新潟市立赤塚中学校 溝井智美)

○ 中学校区での個別の教育支援計画を活用していくために、教頭がリーダーシップをとり小学校が策定したものに中学校で新たな項目を追加又は削除するなどして書き加えていくことは有効である。

限られた時間の中でも提案発表を各会員の実践に照らして批判的に検討し合う姿に、この研究大会の意義を改めて感じました。関係諸機関及び関係各位に改めて感謝申し上げます。



下越Bブロック 研究大会の成果と課題

下越Bブロック研究大会実行委員長

木ノ瀬 隆 幸
(村上市立村上東中学校)

平成28年10月28日、下越Bブロック研究大会が、村上市民ふれあいセンターで開催されました。以下、簡潔に成果と課題を報告いたします。

【成果】

- 1 教育課程に関する課題、教職員の専門性に関する課題について、提言をもとに各校の現状と課題や、教頭や教頭会としての関与性を協議できた。
- 2 第1分科会では、「地域の教育力の活用を図る教育課程の工夫に向けて」という提言を受け、子どもに身に付けさせたい資質能力を学校と地域が共通理解し、中学校区の人材リストを活用して活動の発展性を検討する意義を確認できた。
- 3 第2分科会では、「キャリア教育の充実に向けて」という提言を受け、教頭は県の動向を注視し、自校の現状を踏まえた上でキャリア教育主任と取組を推進し、学校と関係機関・地域事業所等をつなぎ、関係強化を図る意義を再確認できた。
- 4 第3分科会では、「小中連携を核とした地域連携の推進」という提言を受け、目標を共有し、地域や保護者の願いを幅広く受信し、活動に反映させるために、教頭会として行政にどう働きかけていくかを考える良い機会となった。

【課題】

- 1 地域の人的、物的資源がすべて教育課程に位置づけられるわけではない。地域連携の視点を入れて、教育課題や実情を考慮し、学校と地域が対等の立場で協働関係を築く必要がある。
- 2 行政と連携し、地域教育に関する組織が機能するようにしたり、実際にコーディネーターを動かしたりしていくことも、教頭会の役割である。
3年ぶりの村上市開催で、前回の反省を受け、効率の良い準備と当日の運営ができました。

最後に、御後援・御指導いただきました関係諸機関の皆様、そして下越Bブロック教頭会会員の皆様に感謝申し上げます、大会の報告とさせていただきます。

専門部活動報告



調査要請部の活動報告

調査要請部長

中谷 記子

(新潟市立金津小学校)

調査要請部では、今年度も次の2つの調査事業を柱に活動を展開しました。

- 1 勤務実態調査(本県独自)及び全国公立学校教頭会基本調査実施と報告書作成
- 2 「平成29年度新潟県義務教育の振興に関する要望書」の基礎資料作成のための調査実施と意見報告書作成

詳細は、年度末発行の報告書を御覧ください。

一端を紹介しますと、朝7時以前に出勤している会員の割合が46.3%、夜20時30分以降に退勤する割合は33.2%で、ともに昨年をさらに上回り、平日の勤務時間が13時間以上の会員が、昨年は45.4%でしたが今年度は53.1%と半数を超えました。そして、身体的・精神的疲労を感じている会員も依然として68%います。さらに、多岐に渡る教頭の職務の中で「魅力ややりがいを感じる」として、「児童生徒の成長が見られた」「学校課題が教職員の協働により解決した」としているのに対し、実際に時間や労力を費やし負担に感じている職務は、「依頼文書処理・各種調査依頼への対応」となっています。

こうした実態を見ると、教頭の職務改善はまだまだ進んでいない実態にあると言わざるを得ません。全公教と連携し、教頭の厳しい勤務実態を関係機関に訴えていきたいと考えています。

要望書への調査では、要望数が多い順に「次期学習指導要領の実施を見据えた学習指導の改善及び生徒指導の充実に向けた人的配置の拡充」(583人)、「きめ細かな指導の実現に向けた、6学級規模小学校への級外教員配置及び中学校学級担任複数配置の拡充」(436人)、「特別支援教育の将来展望を見据えた教員の採用・人事配置及び人材育成のための制度の拡充」(375人)となりました。今後も校長会と連携し要請活動を展開していきます。

最後に、アンケートの実施に当たり、会員の皆様に多大なる御協力と御支援をいただきました。深く感謝し、心より御礼申し上げます。



教育課題部の活動報告

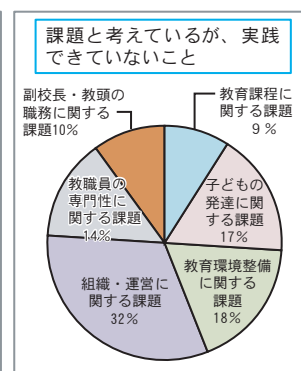
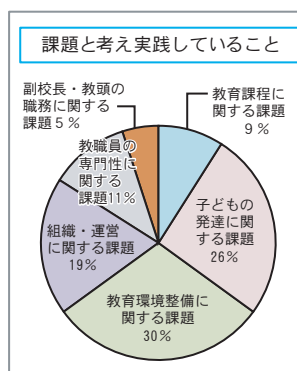
教育課題部長

星 徹

(長岡市立東中学校)

10月28日(金)に、第52回新潟県小中学校教頭会研究大会第10回ブロック研究大会が開催されました。教育課題部では、本研究大会の「サブテーマ追究の窓口と実践の視点」を踏まえ、会員が「自身の実践」を省みる機会とし、また、「仲間の受け止めや実践」を知る機会としてアンケート調査を実施しました。校務多用の中、皆様からアンケートに御協力いただきありがとうございます。

第3課題「教育環境整備…」を選択した割合が30%と全課題の中で最も高く、その中の特色ある学校づくりに対する意識が高いことが指摘されています。地域ぐるみの取組が定着しつつあるという報告があります。それとは別に「組織・運営に関する課題」について成果が得られてないという分析(27年度28%⇒28年度32%)が見えます。



それを含め、課題追究の窓口について、次項以降の分析からは、教頭が直面している具体的課題が見えています。

集約・考察の詳細は、県教頭会ホームページや「調査報告書」(年度末発行)を御覧ください。そこには、各校における具体的な実践と改善のヒントが多く記載されています。これからの皆様の取組に役立てていただけるものがきっとあると思います。

近隣校、郡市教頭会レベルからの教頭ネットワークにより、各中学校区等を基盤とした課題解決を試みていくことで、各校の教育活動の充実拡充を期待したいと思います。

関ブロ茨城大会報告



次を育てるために

糸魚川市教頭会
谷内卓生
(糸魚川市立青海小学校)

茨城県の水戸市で「関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会」が行われました。

初日の全体会では、「みんなの学校」という映画を視聴しました。特別な支援を要する子どもに、学級の仲間も、教師も、地域も、学校に関わる人全てが真剣かつ明るく向き合っていました。

講演会では、その舞台となった大阪市立大空小学校で校長として教育活動全般をリードした木村泰子さん御本人からお話を聞くことができました。この講演会がとても印象的で、2か月経った今でも仕事の合間に思い出すことがあります。全ての子どもたちに開かれた学校づくり、地域と学校が互いを高め合う関係づくり、学校を創ることの面白さなど多岐に渡って示唆を受けました。

2日目の分科会「教職員の専門性に関する課題」では、経験の浅い職員やミドルリーダーの育て方についての実践発表がありました。

群馬県からは「ミドルリーダー育成シート」を活用した実践が報告されました。ミドルリーダーに必要な資質を「責任感」「コミュニケーション力」「企画力」など7項目に分け、課題や対応策を明確にして取り組んだ結果、教職員の実践力を高めることができたという内容でした。

協議会では、実践の成果や課題を基に、各地域の取組を紹介し合いました。東京都では、若手育成の研修を月1回行っていること、茨城県では月2回「キャリアステージアップ研修」を行っていることが分かりました。教職員の専門性を高めるには、まずは一人一人がもっと自覚をもち、自己研修に励むべきです。しかし、教育現場には「やるべきこと」が多く、自己研修に費やす時間的・精神的余裕が充分ありません。とすると、管理職がリードする計画的な取組が必要です。教職員一人一人が、自らの実践力を主体的に高めていけるように教頭ができることは何かを深く考えた研究大会でした。



茨城大会に参加して

加茂市・南蒲原郡小・中学校教頭会
星野晴重
(加茂市立加茂中学校)

第57回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会茨城大会は、水戸市において11月10日、12日の2日間にわたり開催されました。

1日目、開会行事では、本大会の研究主題である「豊かな人間性と創造性を育む学校教育」、そしてサブテーマ～児童生徒一人一人が輝き 未来にはばたく力を育てる教育～についての話や茨城大会がめざす基調提案でした。話を聞き、そうした教育を推進するために、校長を補佐し、学校運営の要を担う教頭の役割について再認識することができました。

記念講演は、元大阪市立大空小学校校長の木村泰子先生より「みんながつくる みんなの学校」と題して行われました。講演に先立ち、大空小学校の1年間を追ったドキュメンタリー映画『みんなの学校』が上映されました。映画、講演から、すべての子どもの学習権を保障することに情熱を注ぎ、全教職員、子ども、地域の人々とともにそれを実現してきた先生の教育理念、子どもや保護者、教師との関わりの様子などが伝わってきてとても感動的な時間でした。

2日目は、9つの研究課題に基づき14の分科会が開催されました。私は、教育課程に関する課題の分科会に提案者の一人として参加しました。提案は、「学校課題解決にせまる小中連携のための教頭の役割」と題し、加茂中学校区における小中連携の取組を中心に発表しました。協議の場では、関東甲信越の学校のさまざまな取組を話題提供しながら情報交換したり、ゴールを明確にし、どんなマネジメントをしていくかを中心に数々の御指導と御示唆をいただいたりすることができ、大変貴重な体験ができました。

最後に余談。例年、某所が調査し発表している都道府県魅力度ランキングが大会開催直前に報道され、茨城県は、今年も「最も伸びしろのある県」でした。大会中も茨城の先生方から明るく、少し自虐的にこの話を聞きました。今回初めて訪れた私だが、そんなことはない、魅力度満点また訪れたい県でした。

郡市教頭会ネットワーク



継続性・協働性・ 関与性を具現する

長岡市三島郡小・中・総合支援学校教頭会

佐山 幸太郎

(長岡市立関原小学校)

1 組織の面から

当教頭会は、長岡市90名、出雲崎町2名の教頭で構成されています。学校種別の部会の他に、総務、研修、厚生、調査要請の4委員会があり、全会員が所属しています。正副の会長・幹事長による総務委員会を除いて、会員は1年ごとに所属する委員会を替え、当会の協働性に貢献しています。

2 研修の面から

年2回の総会に併せて教育委員会（教育長・管理指導主事）様を招いての指導会を実施しています。喫緊の教育課題や管理職の資質向上に関する御指導をいただいています。

年3回の全体研修会では、①中越ブロック研究大会での発表内容検討 ②全公教研究大会や関ブロ研究大会の参加報告 ③講演会を実施しています。

講演会では、学校経営に関する講話を代表の校長先生からいただくだけでなく、人材育成や、地域とともに歩む学校づくりの見識を深める場として、企業経営者等の皆様からの講話をお願いしています。

以上の全体研修会に加え、6地区ごとのブロック研修会を実施しています。中越ブロック研究大会発表課題に関連した研修、郷土の先人や地域おこしのリーダーに学ぶ研修等、地区ごとの主体性と創意を生かした研修会を進めています。

3 更なるネットワークの構築

今年度、所属するブロックから中越ブロック大会の発表者が選ばれたことに伴い、市「米百俵ネットワーク」内に当教頭会共有フォルダを作成しました。

まずは大会発表内容に合わせ、各校での非違行為根絶の取組資料（職員への配付物、チェックリスト等）を分野別に保存し、会員が必要な時に閲覧・活用できるようにしました。

大所帯ならではの当教頭会の長所を生かし、これからも継続性・協働性・関与性のあるネットワークを一層構築していきたいものです。

「学校管理運営の研究により長岡市・三島郡の教育の推進に努めること」、「会員相互の親睦と福祉増進を図ること」を目的にしています。

今年度は長岡商工会議所会頭 丸山 智様から「我がせんべい人生」と題して講話をいただきました。



研修を通じてつながる教頭会

十日町市・中魚沼郡小・中教頭会

会長 島田 昌幸

(十日町市立十日町小学校)

十日町市・中魚沼郡小・中教頭会は、十日町市立小学校18校（校数19校のうち教頭未配置校が1校）、中学校10校、津南町立小学校3校、中学校1校、県立中等教育学校1校の計33校で構成されています。平成29年度からは十日町市の小学校が1校減となり、全体で32校となります。

当教頭会では、毎年夏と秋の2回の研修会を行っています。夏の研修会では、主に県教頭会での提案発表のためのプレ発表会を行います。今年度は、10月の中越ブロック研究大会の第4分科会「組織・運営に関する課題」に向け、十日町市立川西中学校の南雲恵子教頭の提案発表について協議しました。小中一貫教育に端を発し、小小連携、小中連携における教頭の役割について意見交換をし、研修を深めることができました。このように、全会員で郡市の代表者を支える目的で夏の研修会を実施しています。

秋の研修会では、地域素材の教材化を目指し地域巡検を行っています。今年度は津南町教委のジオパーク推進室長・佐藤雅一氏を講師に迎え、「苗場山麓ジオパーク」について見聞を深めました。日本有数の河岸段丘や大規模な柱状節理など、自然が40万年という長い年月をかけて作り上げた壮大なスケールの大地の息吹を目の当たりにすることができました。この地で縄文の太古から脈々と引き継がれてきた先人の営みを強く誇りに感じました。当地の有効な教育資源について専門的な見地から説明をいただく機会を得て、大変有意義な研修となりました。

このほか、市や町の定例教頭会の折に情報交換を行っています。当郡市では、会員のうちおよそ3分の2が新任教頭として赴任しています。教頭は、校長を補佐しつつも即断即決を求められる場面が少なくありません。当地のように新任が多く、且つ一人職である教頭は、会員相互の情報共有が極めて重要です。これからも、横のつながりを大事にし、支え合い、高めあう教頭会を目指します。

郡市教頭会ネットワーク



教育委員会と全教職員で取り組む 『温かい学級づくり支援事業』

魚沼市小中学校教頭会

山本 未知雄

(魚沼市立広神西小学校)

当会は越後三山（八海山・中ノ岳・越後駒ヶ岳）に見守られる自然豊かな魚沼の地において、小学校9校、中学校6校の計15校で活動しています。何でも言い合える、笑顔あふれる教頭会です。

魚沼市では平成26から28年度の3年間、市教育委員会・市教育振興会の協働事業として『温かい学級作り支援事業』を行っています。本事業の目的は次の2点です。

<学力向上>

アンダーアチーバーの出現率を前年度以下にするよう、「全員を連れて行く授業」を目指す。

<不登校出現率の低下>

新たな不登校を生まないためにチームや学校ぐるみで「未然防止」と「初期対応」に取り組む。

教頭が校内の事業担当者です。各校の教頭がリーダーシップを発揮し、市内の全小中学校が一丸となって『温かい学級づくり』に邁進しています。

そこで当会では年6回、全員が集まって研修会を行っています。当市では、ハイパーQ-Uを市内全小中学校で実施しています。10月と11月にはQ-Uアンケート結果を分析する事例検討会の進め方について、研修を行いました。全員が『Q-Uの結果シートから学級の状態を共通理解し、具体的な次の一手を探る』力を付けるための大切な研修会です。全員が同じシートを基にグループ討議を行いました。

また、3年目の集大成に当たる今年度は、全ての中学校区で、実践発表会を行いました。全保護者・地域の方にも参加を呼びかけ、協議会では、授業の様子だけでなく、地域の未来を語り合う、スケールの大きい、密度の濃い話し合いがなされました。学校・学区を越えて展開する「温かい学級づくり支援事業」を、今後も教頭会が積極的に取り組み、絆を深めながら、リードしていきます。



研修を通して 連携・協働を進める

五泉市小中学校教頭会

副会長 住吉 正秋

(五泉市立村松小学校)

当教頭会は、五泉市内の小学校9校、中学校5校の教頭14名で構成されています。毎年度始めに研修テーマを設定し、全ての教頭が順にレポートを持ち寄って研修を行います。昨年度は、「危機管理の在り方」について、各校の具体的な取組について情報交換をし、より適切な危機管理について意見を出し合いました。昨年度の県小中学校教頭会下越Bブロック大会で、研修した成果をまとめ発表をしました。

今年度の研修テーマは、「特別支援教育」です。各校の特別支援教育に関する情報を交換し合い、現地研修を行ったり、講師を招いたりして研修を進めることとしました。各校の実態と課題について報告し、具体的な場面での児童生徒への対応、教職員の指導体制や保護者との信頼関係づくりの事例を共有しています。そうすることで、諸問題への対応力を高めています。現地研修は、管内にある県立五泉特別支援学校へ視察に行き、相談支援担当の先生からお話を聞きました。様々な問題を学校だけで抱えず、個に応じた支援の方法や児童生徒、保護者とのよりよい関係づくりのために、特別支援学校のセンター的機能を活用する重要性を学びました。今後、特別支援学校で管理職経験豊富な校長先生を講師として御招きし、研修のまとめを行う予定です。

教頭会では、事務職員との連携した取組も進めています。今年度から、教職員の学校事務処理の簡素化を目的として、事務職員と教頭が連携し、学校日誌のデータ入力を市内一斉に始めました。これにより教職員の出勤簿への記帳がなくなりました。このシステムを他の学校事務処理に活用できるよう検討を続けます。また、中学校区での学校事務研修会、教育委員会と事務職員、教頭会での合同懇親会など、いわゆる事務レベルでのつながりを重視した取組を推進しています。

今後も喫緊の課題について関係機関と連携しながら研修を深め、教頭としての資質を高めていきます。

特集

キャリア教育を中核とした、中学校区小・中学校 9年間のつながりを意識した教育の推進



上越市教頭会

石野 光 一

(上越市立雄志中学校)

[キャリア教育への取組の経緯]

雄志中学校区は、高田平野の東部、田園地帯に位置し、4つの小学校を有する。平成21年度から2年間の「キャリア教育パイロット事業」の指定研究を受け、指導計画を整備、改善してきた。また、平成22年度より市内全中学校区で地域青少年育成会議が発足し、地域の子どもを連続したつながりで支援する組織ができた。さらに平成24年度から市内全小中学校に学校運営協議会（コミュニティ・スクール：CS）が発足し、学校の運営に地域、保護者の意見を積極的に取り入れる仕組みができた。

昨年度は中学校区校長会を中心に、キャリア教育の視点から育てたい力を明確にし、中学校区の各学校がねらいを共有して連携を深めていくことが確認された。校長会組織として、学習指導部会、心をはぐむ部会、特別支援教育部会、人権教育、同和教育部会の4部会を設定し、校長が部長、教頭が責任者となり、各校の関係職員からなる部会で具体的な共通取組を決めて実践してきている。

[課題]

こうした流れを踏まえ、教頭として、より組織を動かしながら共通取組・協働を少しずつ積み重ね、さらに上越市の方向性である小中一貫教育を視野に入れながら、地域全体で子どもを育てる環境を整備していくことが課題である。

[課題解決の取組の概要]

(1) 目指す方向、実践事項の明確化

学校が目指す方向や実践事項を教職員、保護者、地域住民が共有できるようランドデザインを改善し、共通理解を図りやすいよう工夫した。また、学校評価も対応する項目を整備して職員に周知した。

(2) 組織的な実践の促進

ランドデザインに対応した校務分掌組織に改編し、取組の重点を意識した組織的な実践がしやすい

ようにした。また、週1回の研究推進委員会で進捗状況の確認を行い、横の連携を推進するとともに、PCの回覧板等を通じて職員の共通理解を図った。

(3) キャリア教育の視点からの育てたい力の指導計画への位置付け

各教科の授業や特別活動、学校行事等の全ての教育活動のねらいにキャリア教育の5つの視点[郷土愛(あい) かかわる力(ひと) みつめる力(じぶん) やりぬく力(いきる) 夢おこす力(みらい)]を位置付け、全職員がねらいを意識しながら実践を積み重ねた。(上越市視覚的カリキュラムの活用等)

(4) CSと地域青少年育成会議の有効活用

CSの委員の意見を生かして学校運営のあり方を改善し、それを実現するために育成会議による具体的な支援を得られるよう、地域貢献活動等の活性化を図った。

(5) 中学校区の小中学校の共通取組

各校の研究主任を中心に、平成27年度末には「中学校区キャリア教育取組プラン」をパンフレットの形でまとめることができた。小学校から中学校へのステップアッププログラムも整理、改善が続いている。現在は、キャリア教育で身に付けさせたい力がどの程度身に付いたかを評価し、さらに取組を改善していくための評価表づくりを進めている。

[今後の課題]

今後の小中一貫教育に向けて、中学校区全体で学校と地域が子どもに身に付けさせたい力を明確にして、地域の力を活用しながら小中の連続した学びを実現していくことが必要である。その鍵となるのはキャリア教育でありCSであると考えている。

キャリア教育で育てたい力とは学校のすべての教育活動のねらいと合致する。またその力は学校だけで育てられるものではなく、地域の力が必要である。そのために教頭の役割として、職員の意識を高めるとともに地域の力を引き出すべく、まずは小学校区ごとのCSが連携できる体制づくりを進めていくことが今後の課題である。

随 想



Let's try トレイルランニング!

見附市立田井小学校

近藤 由紀子

若い頃、どんなに無茶をしても丈夫でした。ところが、30代後半になると胃の調子や体脂肪にストレスの影響が表れます。このまま中年太り&老化まっしぐらか……。そんなときに会ったのが、ランニングでした。最初は、ロードを走っていましたが、すぐに、膝や股関節を痛めて医者通い。柔らかい山道を走り始めると、関節の痛み、そしてお腹の脂肪まで消えました。足に立派な筋肉がつき、体力もつきました。山の中で出会う草花の群生や遠くの美しい山々、澄んだ青空を見ると、いやなことを忘れて、爽やかな気分になりました。トレイルランニングを始めて5年目で、絶大なる効果を実感しました。お勧めのコースを紹介します。

① 見附市市民の森

天気がいいと見える越後三山や春のカタクリの群生が心を癒してくれます。1周8kmのコースです。(春先、



斑尾高原16kmコース

晩秋は熊に注意! 走った後は、是非、「みつけ健幸の湯」へ)

② 斑尾高原

30分の湖一周ジョギングコースから、山を3つ登る超ハード50km1日コースまでいろいろなコースが選べます。走った後、斑尾高原ホテルの温泉に浸かれば、心も体も癒されます。

その他、秋の(文化祭代休にお勧め)ドラゴンドラとリフトを利用した苗場山中級コースでは、絶景に心が洗われます。時間のない方には、三条市内の近藤家大会前特訓コース(上り2.7km)がお勧めです。

ランニングは、心と体の健康だけでなく認知症予防にもいいらしく、走りながら、法規などを復習すると不思議と記憶力が向上します。是非お試しあれ!



教頭はヘッドコーチ

佐渡市立前浜中学校

中川 久雄

高橋由伸新監督の初采配に始まり、「神ってる」の流行語大賞受賞で終わった今年の日本プロ野球。私がいつも注目して見ていたのは、12球団中、最年少の高橋監督を支える村田ヘッドコーチの動きでした。

人気球団の新監督ということで、テレビカメラはよく高橋監督をとらえます。その時、必ずその右脇に寄り添い、何かを話しかけている村田ヘッドコーチが映し出されていました。野球が大好きで長い間野球部の監督をさせていただいた私は、作戦面でどんな話をしているのか興味をもつと同時に、この姿は、校長と教頭の関係に似ているなと思って見えました。

校長も監督も、毎日が決断の連続で、その決断には責任をもたなければなりません。その決断が最善の決断となるよう、教頭とヘッドコーチは、有効適切な情報を提供し、時には有益な進言を行う必要があります。

そして、有効適切な情報を提供するためには、他の職員や生徒(ヘッドコーチの場合は他のコーチや選手)とのコミュニケーションを密にしながら、各自の状況を的確に把握する能力が要求されます。

また、校長や監督の方針を具現化するための企画・調整力や指導・助言力も重要になってきます。適材適所の人材配置やスタッフへの指導・助言等、実際に一つ一つの教育活動(プロ野球では公式戦)が始まるまでの事前準備やねらい達成(プロ野球では勝利)に向けての修正等が主な職務内容となります。

村田ヘッドコーチは、きっと、これらのことを試合中やその前後に、高橋監督に話しかけていたのだと思います。

学校も野球も、チームとして動いています。時代が求める「チーム学校」に向け、校長を補佐する参謀役として、また、校長、職員、生徒、保護者、地域住民を結ぶパイプ役として全力を尽くします。

教育懇談会報告



平成28年度教育懇談会の報告

新潟県小中教頭会

副会長 **多田 和幸**
(長岡市立阪之上小学校)

1 教育懇談会の開催

(1) 平成29年1月17日(火) 15:00～
「じょいあす新潟会館」

(2) 主催 新潟県小学校長会・新潟県中学校長会

2 主な内容

(1) 県教育委員会御指導

県教育委員会教育次長 中山 道夫 様
県の教育課題について

- ① 更なる学力向上に向け、県では、情報・ノウハウの共有が図られるように「新潟県教育支援システム(仮称)」の構築を検討している。
- ② 自殺予防について、「あだ名、悪口で死を選んでしまう子もいる」と認識し、多角的視点からリスクを捉え、組織的に対応してほしい。
- ③ いじめ問題について、今後、メールやSNS等を活用した相談支援も検討していく。
- ④ 不登校が2000人を超えている。一層、未然防止・初期対応・自立支援に努めてほしい。
- ⑤ 多忙化解消について、勤務実態の確実な把握を、業務の見直しや適正化につなげてほしい。

(2) 話題提供及び研究協議

協議題「地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくり」～小中連携の推進～

話題提供①

村上市立村上小学校 鈴木 正美 校長
村上東中学校区小中連絡協議会では、「知育部」「徳育部」「体育部」毎に事業を展開している。

知育では、研修会、3校統一『学習の約束』の配付や、板書の仕方の基本ルールづくり、望ましいノートのデータ蓄積などを行っている。

徳育では、鮭をテーマにした「命のリレー」学習が行われ、中学2年生と小学4年生とが交流し、鮭の発眼卵寄贈・稚魚の放流活動などを行っている。

体育では、食育の講演会や栄養教諭と連携した授業などを実施している。

教職員・児童生徒・保護者・地域で、望ましい関係ができています。安定的な学力維持が課題である。

話題提供②

三条市立第三中学校 樋山 利浩 校長
中学校区4校の頭文字をとった「KUSSの会」として、連携型の小中一貫教育を推進している。

4-3-2制のカリキュラムを構想し、「ふるさと三条を誇りとし、次代をたくましく生き抜く児童生徒の育成」をテーマに取り組んでいる。

小中互いの公開授業や乗り入れ授業、体育や音楽での小小連携、4校共通での生活習慣指導、母校運動会での役員ボランティア、ふるさと三条を学ぶ小路探検など、様々な取組がある。

他校の頑張りや小中それぞれのよさを参考にし、教師の実践力が向上している。一層の授業改善、時間・多忙感・温度差など連携型一貫教育の短所の克服、三中全会の維持が課題である。

(3) 校長会からの要望書に対するの情報提供他

県教育庁義務教育課長 大野 雅人 様

- ・人的配置の拡充について、限られた数ではあるが、学校の実情を踏まえて適切な配置を行っていく。
- ・通級指導教室の増設については、国からの定数が増えないと難しい。定数確保のためには、各校での特別支援学級の新設・増設・維持が重要である。
- ・教員の給与体系の一本化については、現状で妥当なものと考えられる。
- ・来年度ハートフル相談員を廃止し、より専門性の高いスクールカウンセラーの配置を進めていく。
- ・・・・その他、育児休業対応・県市間の人事異動・臨時職員の確保・主幹教諭の配置等、多岐にわたる要望事項について情報提供をいただいた。

県教育庁義務教育課参事 井上 正裕 様
次年度学力向上の重点の一つとして、言語活動の一層の充実、読解力の伸長を図るため、国語を核にした1中学校区1取組の実施を検討している。

新潟県小中学校教頭会
[事務局]
県教頭会ホームページ
全国公立教頭会ホームページ

〒950-0911 新潟市中央区笹口2丁目7-17 和田ビル2F
E-mail n-kyotoh@crest.ocn.ne.jp TEL (025) 244-8225
http://www.niigata-kyotokai.jp/ FAX (025) 244-5060
http://www.kyotokai.jp/